うさぎとかめの通信　　上越市立高田幼稚園

（園長室だより）　１１０周年
令和８年１０月２１日　　第２１９号

HP の QR コード→

「思い→体験→表現」は、幼児、児童、生徒に一貫する遊び学びの基本！

☆環境構成～状況をつくる～☆



午後から雨が降るという天気予報。午前中は、少し青空が顔を見せる程度の曇りでした。中で遊んでいた３歳児の子供たち。ある子が、「外で遊びたい」と教師に言い、外で遊ぶことにしました。外は、いつもより風が強く、風の動きを肌で感じることができます。

教師は、筒状のビニール袋に空気を入れ、空に向かって思いっきり投げ飛ばしました。ビニール袋は風に乗り、ビューンと園庭の端の方に飛んでいきました。「わぁー」と声をあげながら、教師はビニール袋を追いかけました。ロケットのように飛んでいくビニール袋。それを見ていた子供たちは、瞳を輝かせてビニール袋を追いかけ始めました。そして、子供たちは、自分もやりたい、自分の袋がほしい、もっと高く飛ばしてみたいという思いをもちました。教師は、筒状の袋の他、大きな袋を何枚か用意していました。そして、空気を入れた袋を繰り返し飛ばしてみる中で、風に乗って飛ばなくても地面の上を移動する袋を追いかけたり近づいてくる袋から逃げたりして遊ぶことを楽しんでいました。



風は、自分の思い通りには吹いてはくれません。あっちへ飛んだり、急に強く飛ばされたりと、風の動きに翻弄されながら、子供たちは、袋が勝手にどこかに行かないようにしたくなったようです。教師にひもを付けてもらいました。袋の風船と違い、手に持つことができ、風がなくても自分で走って風を受け、ふくらましながらカイトのようにして遊び始めました。

膨らんで浮き上がる様子を見た子供は、自分が中に入っていれば、袋ごと浮き上がると思ったようで、「とばないねぇ」と不思議がっていました。大手町小学校で見た気球を思い出し、膨らむと上がっていくと考えたのでしょう。

幼児教育は、「環境を通して行う教育」です。子供たちが活動への意欲をもって主体的に活動することは、どのような環境でも自然に生じるというわけではありません。教師は、風の動き、ビニール袋、教師の姿、友達との関わりなどの環境条件を関連させながら、子供が主体的に遊び、発達に必要な経験を積んでいけるような状況を作り出しています。その環境構成があって、子供が身近な環境からの刺激を受け止め、自分から興味をもって環境に主体的に関わりながら、試行錯誤したり考えたりしています。

10月の子供たち



大手町小学校へ　気球を見にいこう！


芸術の秋！集中してます


園庭で給食　おいしいね



サツマイモ　大きいね




みんな大好き　ふわふわドーム